

「令和5年度第1回いじめ調査の追跡調査」及び「第2回いじめ調査」のまとめ

学校教育課

1. 令和5年度第1回いじめ調査の追跡調査

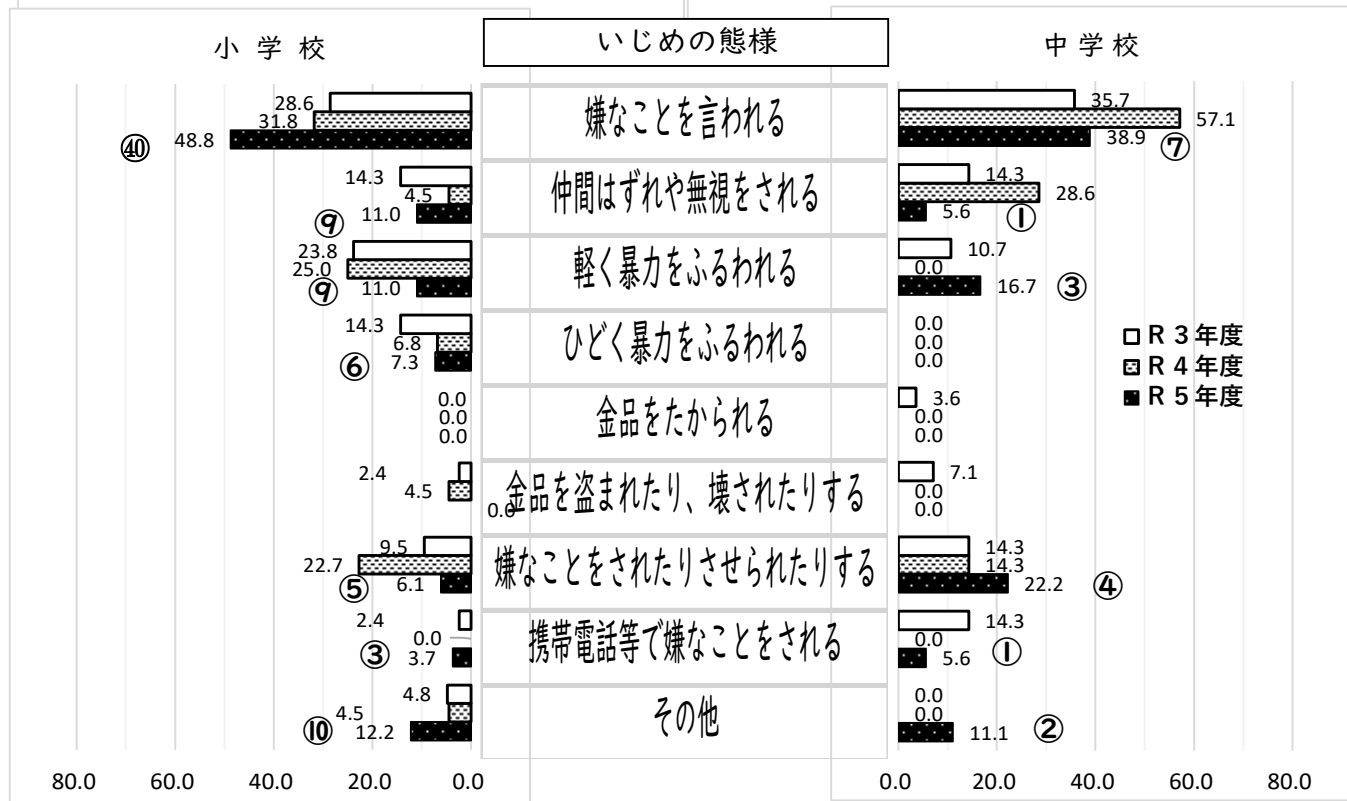
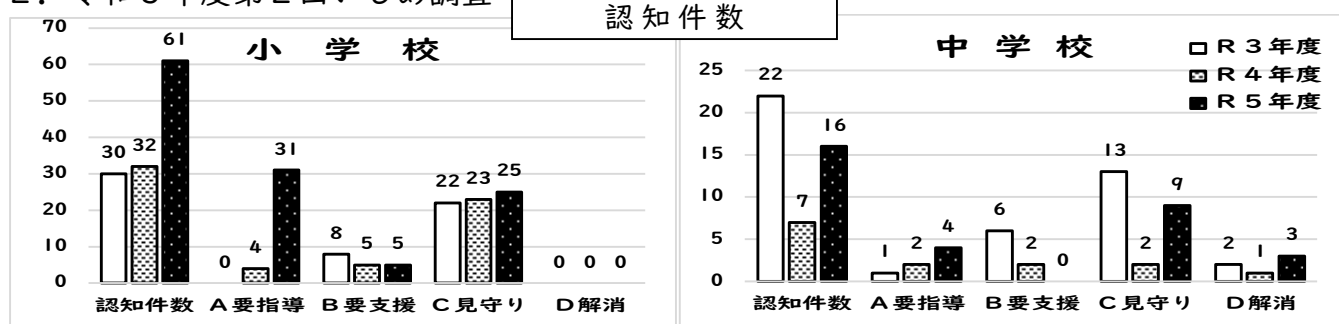
※相当の期間とは、「少なくとも3ヵ月を目安」とする

A	要指導	いじめに係る行為が止んでおらず、被害児童生徒が心身の苦痛を感じているもの	未 解 消	いじめに係る行為				
B	要支援	いじめに係る行為は止んでいるが、被害児童生徒が心身の苦痛を感じているもの		心身の 苦痛	ある	止んでいない		止んでいる
								3ヶ月未満
C	見守り	いじめに係る行為が止んでおり、被害児童生徒も心身の苦痛を感じていないが、行為が止んでから相当の期間が経っていないもの	解 消	ない	A	B		
D	解 消	いじめに係る行為が相当の期間止んでおり、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないもの					C	D

【小学校】				【中学校】			
令和5年度第1回いじめ調査認知件数60件		追跡調査結果		令和5年度第1回いじめ調査認知件数25件		追跡調査結果	
A（要指導）	28	A（要指導）	5	A（要指導）	1	A（要指導）	0
B（要支援）	9	B（要支援）	1	B（要支援）	12	B（要支援）	4
C（見守り）	23	C（見守り）	2	C（見守り）	12	C（見守り）	0
		D（解消）	52			D（解消）	21

令和5年度第1回いじめ調査より、追跡調査の対象となる認知件数は、小学校60件、中学校25件であったが、解消に向けた各校の取組等により、小学校で「要指導」が5件「要支援」が1件「見守り」が2件、中学校で「要支援」が4件あるものの、そのほとんどが「解消」となっている。

2. 令和5年度第2回いじめ調査



認知件数は、小・中学校ともに昨年度より増加している。小学校では、「要指導」の割合が高くなっている。いじめの態様は、小・中学校ともに『嫌なことを言われる』が最も多かった。小学校では「嫌なことをされたりさせられたりする」が昨年度約23%で一昨年度の2.5倍になり心配したが、今回は4分の1と減少している。各いじめ事象について引き続き学校全体で、組織的に指導や経過観察を行うよう当該校に指導を行っている。